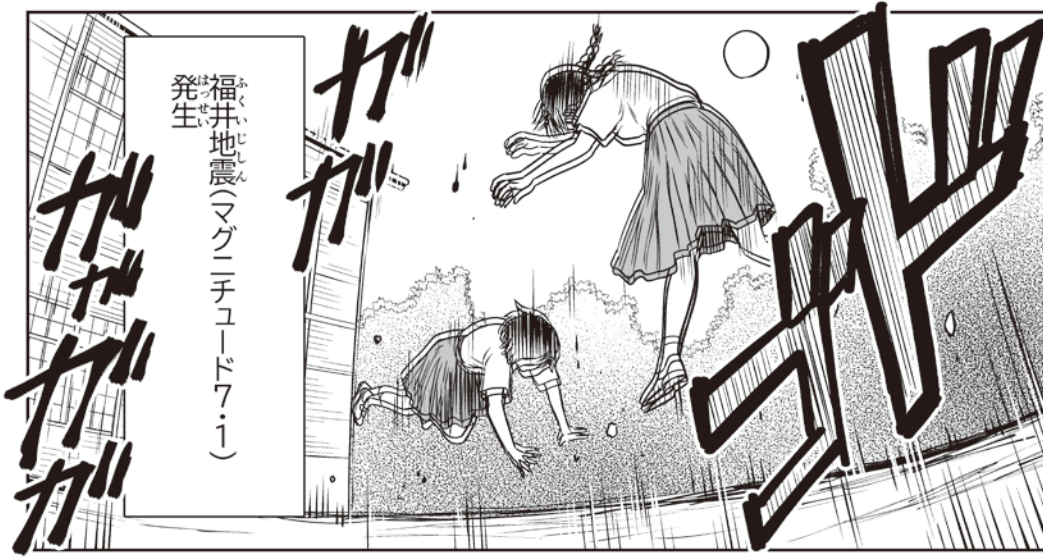


だい しょう てんしゅ
第4章 お天守がとんだ



終戦から間もない
1948年
(昭和23年)
6月28日
午後4時14分



発生 福井地震(マグニチュード7.1)



お天守が





1948年(昭和23年)
 当時人口6800人の
 丸岡町の被害は
 死者は320名、
 負傷者は2100名※



※1949年(昭和24年)福井県統計書より



解体修理から
 わずか5年で
 天守は倒壊した

お天守が...
 無くなつとる...

そして



みんな
なんとなく
元気がない

だが…



あそこに
お天守が無いと
心の中が空っぽの
ようや…



翌年

町は
落ち着いてきた



文部省です
丸岡城天守の
調査に来ました

文部省の指導で
部材は保管する
ことになった



友影賢世

丸岡町長
当時80歳

戦後に行われた
昭和天皇の行幸で
丸岡町を加えるよう
宮内庁に願ひ出るなど
高年齢ながら
心身ともに
頑健な町長であった



お天守は必ず
再建せねばならん

お天守の再建こそが
もっとも町のみんなを
元気づけるんや

第5章 地震からの復興

東京 上野

友影は国に
天守の一刻も早い
再建を陳情したが

そのころ国では
国宝の見直しが始まっていた

ほかの城も
修理が必要な状況で…
すぐには
とてもむりです

そんな!

友影はあきらめず
東京に行くたびに
何度も何度も
天守再建を訴えた

また
あなたですか…

なんの
これしき
わたしは
何度でも
参りますぞ!

1950年(昭和25年)
文化財保護法が制定され
丸岡城天守は
崩壊しているにもかかわらず
重要文化財に指定された

お天守を
再建するぞ

そうです
やりましょう!

友影は
多くの人々とともに
天守復興委員会を
立ち上げ

これまで以上に
国に対して
丸岡城天守再建の
必要性を訴えた



やりませ
集めてみませす!

お天守が
崩壊してから
3年近く
経っていた



それならば
フホン

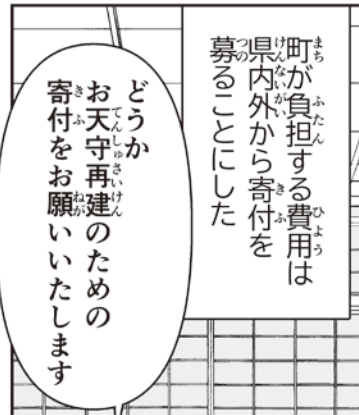


地元が再建費用の
半額を
負担できるなら
天守再建について
検討しましょう

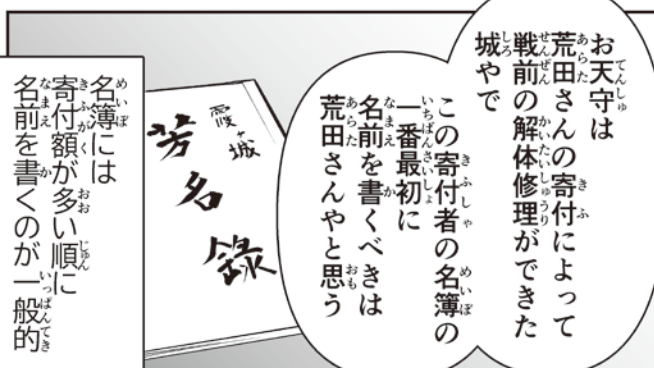
ほんとう
本当ですか!?



町長
寄付を集めるなら
まずは荒田さんに
声をかけてくれんか



町が負担する費用は
県内外から寄付を
募ることにした
どうか
お天守再建のための
寄付をお願いします



お天守は
荒田さんの寄付によって
戦前の解体修理ができた
城やで
この寄付者の名簿の
一番最初に
名前を書くべきは
荒田さんやと思う

名簿には
寄付額が多い順に
名前を書くのが一般的

芳名録

私（わが）も寄付（きふ）はしたいと思（おも）うけれど

荒田（あらかた）さんより先（ま）に名前（なまえ）を書（か）くのはでき（き）んのお（お）…

ま（ま）ずは荒田（あらかた）さん（さん）の初筆（しよひつ）をもらってき（き）てほ（ほ）しいん（ん）ですわ

丸岡（まるおか）に住（す）む人も県外（けんがい）に住（す）む人も誰（たれ）もが同（おな）じこと（こと）を言（い）った



小樽（おたる）

そのお年（とし）でよく丸岡（まるおか）から訪（ま）ねてくださ（さ）った

お天守（てんしゆ）再建（さいけん）の寄付（きふ）を 願（ねが）ひたいの（の）です（す）が…

荒田（あらかた）さんより先（ま）に寄付（きふ）はでき（き）ないと お（お）っしやる（やる）の（の）です

なるほど…

荒田（あらかた）太吉（たきち） 72歳（さい）

…今（いま）の私（わが）には戦前（せんぜん）のよう（よう）な寄付（きふ）はでき（き）ません

申（もう）し訳（わけ）ありませ（ませ）ん



荒田の
主力事業の海運業は
戦時中に船を
手放さざるを得ず

戦中戦後にできた
借金もあり
高額な寄付が
できる状況ではなかった

どうしても
荒田さんの初筆が
いただきたいのです

寄付は
されなくても
かまいません

寄付するだけで
書いていただければ……!

そんな……

そんな
無責任なことは
できません

そこを
どうか……!

友影さん
今日はここまでに
させていただきます

明日
この岩田を通じて
ご連絡します

社長は
天守をなんとかしたい
お気持ちの方が
強いではありませんか

……お前には
隠せんのう



翌日
岩田は
荒田の
気持ちを
汲んで
寄付を
行いたい
と
申し出た



荒田太





荒田さんには
お世話に
なりましたので

荒田の口添えにより
北海道の事業家からも
寄付の申し出を
受けることができた



せつかくですから
小樽を
ご案内しますよ



残額は
必ず集めます

どうか
丸岡城天守再建の
認可をお願いします

こうして
再建工事は
認可されたのだった



東京

芳名録



文部省
竹井技官

適任者が
おりますよ

竹井さん
お天守再建のための
現場責任者は
どうしましょうか



再建や...!

北海道での寄付を
きつかけに続々と
寄付が集まった

だい しょう 第6章 よみがえったお天守 てんしゅ



棟梁は
永平寺の宮大工
山口万次郎さん

山口
万次郎



今立郡池田にお住まいで
須波阿須疑神社の
修復を担当した

井伊長善さんをと
思っております

井伊
長善



どこに
土台が崩れて
まるで丘のようだ
なにかあったのか
見分けがつかない…

1951年
(昭和26年)
12月1日
工事を開始

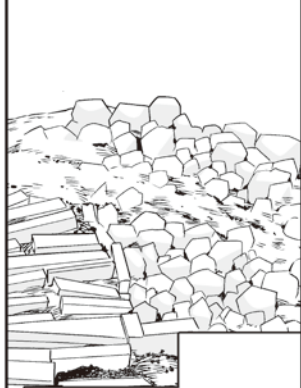


竹井と井伊は
図面と写真を照合しながら
再建していく方針を固めた



井伊は
戦前の解体修理を
務めた
竹原を訪ね

貴重な記録写真
130枚を
借り受けてきた



崩れた
天守台は
積み直しが
必要

その結果



天守台の石や
瓦もどのくらい
使えるものがあるか
調べましょう

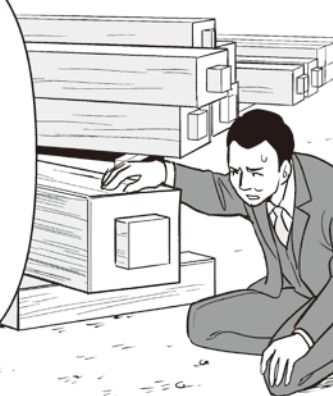
これが乱積み※で
保管されていた
天守の部材か…
※不規則に積み上げること

これでは
どれがどこの
柱かわからんな



積み重なっていたせいで
この材も
おかしくなっている

古材の中には
使えない木材もあり



石垣の
使える石を
選別した後は
石積みの
研究やな

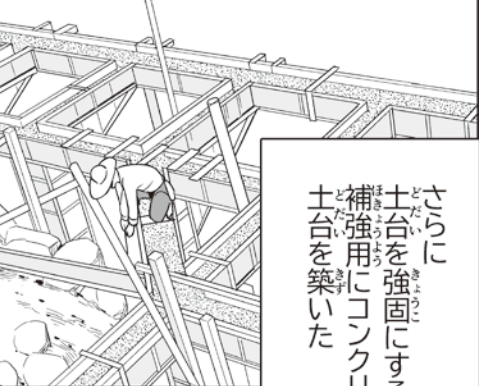
フゥ…

古材は
元の位置を
調べる…

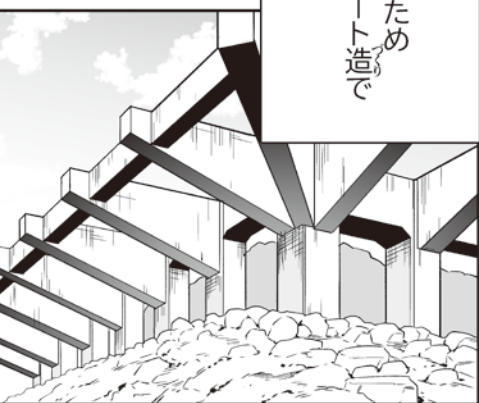
もつとも
時間がかかるのは
石瓦か…

石瓦は8割
割れている
状態だった





土台を強固にするため
補強用にコンクリート造で
土台を築いた



竹原先生の
戦前の解体修理の資料は
本当に貴重なものだ

これを使って
少しでも多く
元の古材を使って
再建しなければ……!!



石垣は
野面積み※を修練した
石垣職人によって修復

※自然石をそのまま積み上げる方法

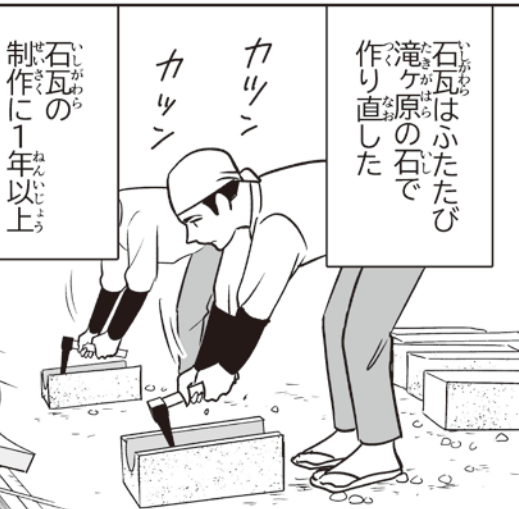
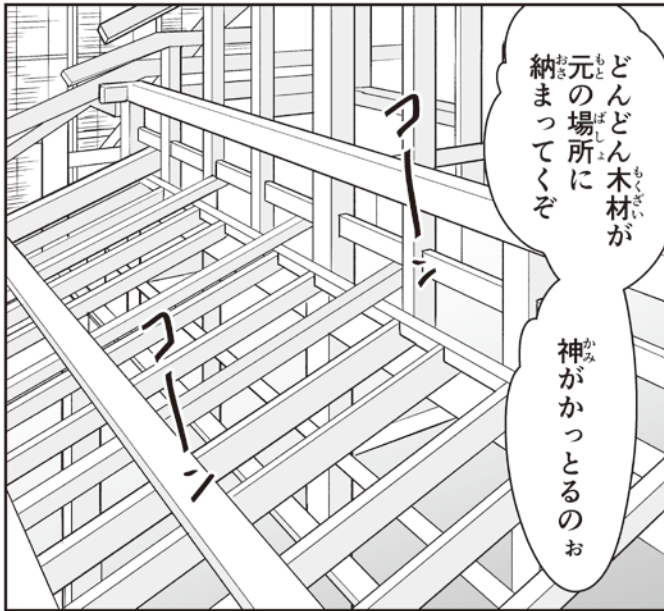


いつまでも
お天守が変わらなく
そびえ立つように

友影は
白の袴姿で

自分の写真と家宝の刀
万代不易※の巻物を持って
天守台に奉納した

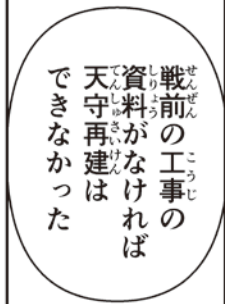
※永遠に変わらないこと





私が造りましょう

鮭鉾は創建当時の
木造銅板作りに
戻しましょう！



戦前の工事の
資料がなければ
天守再建は
できなかった



よかった

すべて
当てはまった



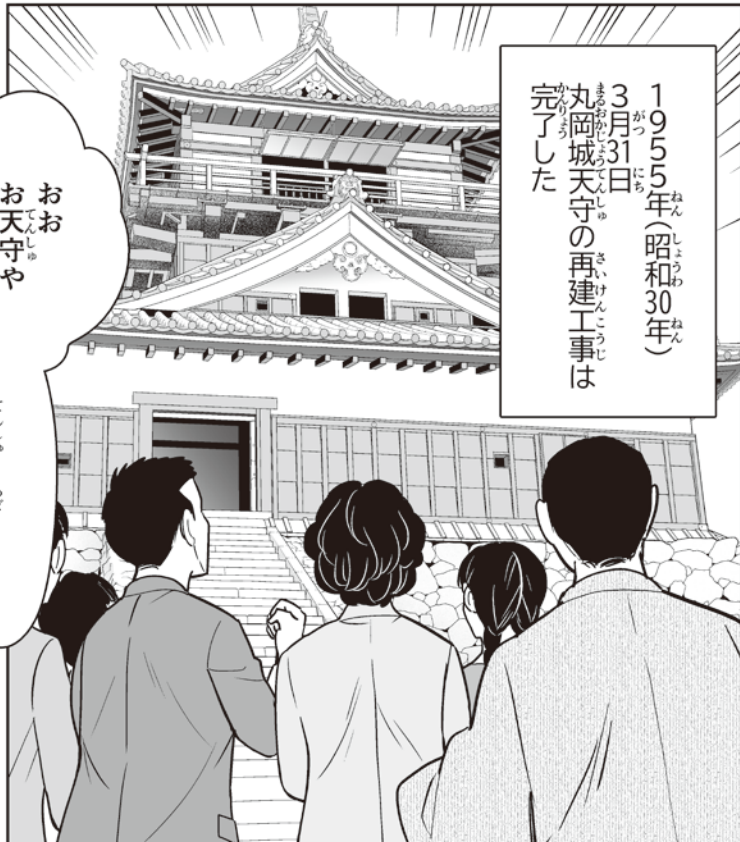
棟梁は1ヶ月かけて
鮭鉾を仕上げた



わあ
あ
あ

おお
お天守や

お天守が戻った！



1955年(昭和30年)
3月31日
丸岡城天守の再建工事は
完了した





ああ…
きれいなもんや

ほんとう
本当に



きれいに元通りに
なっていますね
旦那様



その後
荒田夫妻は
天守を訪れた



お天守は
うららの誇りや

おわり